

2007年9月6日

株式会社 ユニディオコーポレーション  
代表取締役社長 河内 英聡 様

社団法人 日本建築学会九州支部  
支部長 渡邊 俊行

### 旧長崎刑務所の保存に関する要望書

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃、本会の活動につきましては、多大なご協力を賜わり、心より感謝いたしております。

さて、御社におかれましては、このほど諫早市野中町にごございます旧長崎刑務所の建物と土地を購入され、再開発をしておられる由、伺いました。

すでにご存知かと思いますが、別紙にありますように、この建築作品は、明治の刑務所建築として日本の建築史に残る、優れた数少ない貴重な刑務所建築の例であります。また、明治期に活躍した建築家山下啓次郎の代表的建築作品の一つであります。近年、明治期の優れた建築が次々と姿を消していく中で、このような優れた建築を保存し、利活用していくことは、後世に残されたものにとって非常に重要なことかと思えます。聞き及ぶところによりますと、15年近くも放置された結果、ずい分傷みも激しいと聞いておりますが、別紙見解のとおり、正門と庁舎については、まだ十分保存修復が可能というふうに思われ、諫早市民からも保存要望の声が上がっていると聞きしております。

日本建築学会としましても、このような貴重な建築遺産が失われてしまうことは、非常に残念なことであります。この建築の文化的また歴史的価値を後世に伝えるため、今回の御社の事業につきましては、どうか何らかの形での保存を考慮されるべく格別のご配慮を賜わりますようお願い申し上げます。

今後とも、優れた歴史的建造物の保存のために、ご理解とご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

敬具

2007年9月6日

株式会社 新日本建物  
代表取締役社長 村上 三郎 様

社団法人 日本建築学会九州支部  
支部長 渡邊 俊行

### 旧長崎刑務所の保存に関する要望書

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃、本会の活動につきまして、多大なご協力を賜わり、心より感謝いたしております。

さて、御社におかれましては、このほど諫早市野中町にございます旧長崎刑務所の建物と土地を購入され、再開発をしておられる由、伺いました。

すでにご存知かと思いますが、別紙にありますように、この建築作品は、明治の刑務所建築として日本の建築史に残る、優れた数少ない貴重な刑務所建築の例であります。また、明治期に活躍した建築家山下啓次郎の代表的建築作品の一つであります。近年、明治期の優れた建築が次々と姿を消していく中で、このような優れた建築を保存し、利活用していくことは、後世に残されたものにとって非常に重要なことかと思えます。聞き及ぶところによりますと、15年近くも放置された結果、ずい分傷みも激しいと聞いておりますが、別紙見解のとおり、正門と庁舎については、まだ十分保存修復が可能というふうに思われ、諫早市民からも保存要望の声が上がっているとお聞きしております。

日本建築学会としましても、このような貴重な建築遺産が失われてしまうことは、非常に残念なことであります。この建築の文化的また歴史的価値を後世に伝えるため、今回の御社の事業につきましては、どうか何らかの形での保存を考慮されるべく格別のご配慮を賜わりますようお願い申し上げます。

今後とも、優れた歴史的建造物の保存のために、ご理解とご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

敬具

## 旧長崎刑務所に関する見解

日本建築学会九州支部 歴史意匠委員会  
委員長 伊藤 重剛

旧長崎刑務所（諫早市野中町）は、その建設背景や事例として、国内にわずかに残る貴重な煉瓦造の刑務所建築である。この建築は、明治40年に竣工したもので、明治政府が西欧技術の導入を推し進めるなか、当時の司法省によって建設された先端的な刑務所建築として位置づけることができる。当時、長い鎖国の時代を経て、近代国家としての新たな日本を海外に印象付けることが明治政府の急務となっていた。そのなかでも、とくに刑務所は人権に深く配慮していることを示す格好の対象であり、従来のように囚人に対して罰を与えるためではなく矯正教育の場として、日本の近代化を象徴する存在となっていたのである。したがって、その建築は西欧の建築技術やデザインに匹敵、さらにはそれを凌駕するものでなければならず、たんに囚人を収容する建築といった枠組みを超えて、国家の重点事業として調査・設計・建設・運営に至るまで詳細に企図され実現したものであった。

こうした背景のもとで建設されたのが、長崎・金沢・千葉・鹿児島・奈良の、いわゆる明治の五大監獄である。長崎・金沢・千葉は明治40年に、鹿児島・奈良は明治41年に竣工している。石造の鹿児島を除く4つは、いずれも大部分が煉瓦造でつくられた。どれもみな、刑務所建築とは思えないほど細部に華麗なデザインが施されており、全体のプランもきわめて特異な構成を持っている。しかしながら、戦後の近代化のなかで、これらの刑務所建築は、設備の改善や収容者の増加、周辺の市街地化を理由に取り壊される。現在、保存・活用されているのは少年刑務所となった奈良1件だけで、通常は敷地の外からしか見ることができない。千葉は正門と庁舎だけが残され、また鹿児島は正門だけ、金沢は正門と看守棟および一部の木造平屋獄舎が犬山市の明治村に移築保存されているに過ぎない。

そうしたなかで、刑務所を通して明治国家の意図を知ることができる国内唯一の建築となったのが、この旧長崎刑務所である。新刑務所の建築・移転によって、15年近く未使用のまま風雨にさらされたため、獄舎の一部は破損が激しいものの、正門と庁舎の保存状態はきわめて良好である。とくに、庁舎はほかの4つの監獄の二層と違って、平屋建てでつくられ、それにもかかわらず縦長の開口部と中央の尖塔ドームからなる変化に富んだ外観で構成されていることに、この建築の大きな特徴がある。

設計者の山下啓次郎は、妻木頼黄のもとで明治28年に竣工する巣鴨監獄の建設に従事したのち、これら5大監獄の設計・監督を行った。工科大学造家学科の同級には、伊東忠太や河合幾次がいて、辰野金吾の孫弟子として明治を代表する建築家と言っていい。それにもかかわらず、山下啓次郎設計の現存作品はきわめて少ない。山下は、卒業後の明治34年に監獄視察のため欧米に渡航し、当時は最先端であった獄舎部分の放射状二層プランを初めて日本の明治5大監獄に導入している。その一つを旧長崎刑務所に見ることができることの意義は大きい。

以上のように、旧長崎刑務所は、1) 明治の日本が海外に対して近代国家を印象付けるための象徴的な建築であること、2) それを知ることができる可能性を残した明治5大監獄のうちの国内唯一の建築であること、3) 煉瓦やプラン、外観のデザインなどに、西欧の技術や意匠の導入を実現した明治の数少ない貴重な遺産であること、4) 用途転換も含めて保存再利用されまちづくりの起点となることで、諫早、長崎、日本、さらにはアジアや世界の遺産として位置づけることができるといった理由から、保存し再利用することの意義はきわめて重大である。



( 撮影 : 前村敏彰氏 )